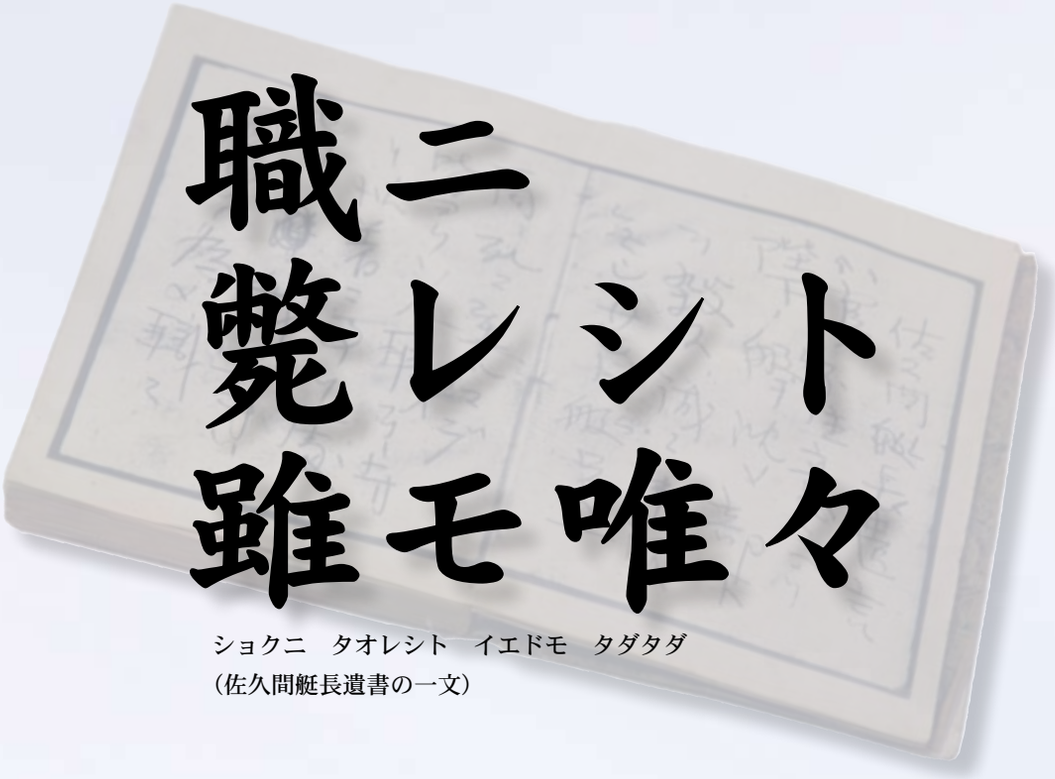
広報わかさ

Publications Wakasa

5
2010
No.61

鳥羽小学校登校風景



職ニ斃レシト雖モ唯々

ショクニ　タオレシト　イエドモ　タダタダ
（佐久間艇長遺書の一文）

殉難から100年。佐久間精神、今ここに、そして後世へ

死期がせまりくる中になっても、職責を全うし、部下の家族を気づかう情の深さを見せたその人、佐久間勉。

佐久間勉艇長殉難100年にあたる今年4月、艇長の遺品などを展示する「佐久間記念交流会館」が開館しました。

物があふれ、捨て場を失うほど豊かになった現代。反面、思いやりや責任感は薄らいではいないでしょうか。

潜水艇事故で危機に直面してもなお、部下の家族を思いやる佐久間の人としてのあり方、生き方を後世に受け継いでいくことが望まれています。

［施設案内］

入館料：無料
入館時間：9:00 ～ 16:30
休館日：月曜、第3日曜、年末年始

佐久間記念交流会館 開館

佐久間勉艇長

書き写した教科書

教科書は手写しして間に合わせるという非常な苦労をして勉学に励んだ。

心身鍛錬した木刀

少年期、見かけや声は女子のように優しいが、木刀を振り体を鍛え、心身鍛錬につとめた。

第6潜水艇の遭難

1910年（明治43年）4月15日、第6潜水艇は山口県新湊沖で半潜航訓練中、不測の事故により沈没。

佐久間艇長はなしうる限りの手段を講じたが、艇は浮上せず、艇長以下14名がそれぞれの持ち場についたまま殉職した。

佐久間艇長は死期せまる最期の任務として、遺書を書きつづった。

佐久間艇長の遺書

艇内には、ガスが充満し、薄れゆく意識の中、司令塔の小さなガラス窓から入るわずかな明かりを頼りに佐久間は遺書を記した。

遺書には第1に艇を沈め、部下を死なせるに至った責任を謝罪し、艇員一同が最期まで持ち場を離れず職分を全うしたことがつづってある。

また、この事故によって潜水艇の発展が妨げられることのないよう沈没の状況や原因が詳しく記されていた。

〈遺書の一部〉
艇員一同、死ニ至ルマデ
皆ヨクソノ職ヲ守リ
沈着ニ事ヲ処セリ、
我レ等ハ国家ノ為メ
職ニ斃レシト雖モ唯々

遺書

遺書は、小さな手帳に書きつづられていた。
1ページに5行ほど、全文39ページにおよぶ。
息苦しさや薄れゆく意識の中にあったと思われるが、その文は簡潔にして明瞭である。

第6潜水艇の模型

全長22.5m、乗組員14名。国産初の潜水艇で、形も小さく性能も貧弱で「ドン亀」と呼ばれた操縦困難な艇であった。そのため乗組員はベテランばかりが選ばれた。

◀遺徳をしのび献花

▶のこすことば文学賞授賞式

ホームページに動画

佐久間勉艇長殉難100周年記念遺徳顕彰祭

佐久間勉艇長が殉職した命日にあたる4月15日、遺族や海上自衛隊など関係者約500人が参加して、遺徳顕彰祭が行われました。

今年は殉難100年目にあたることから、佐久間勉艇長遺徳顕彰会と小浜市の歴史と文化を守る市民の会が合同で開催。

顕彰祭では、海上自衛隊舞鶴音楽隊の演奏や穂水流国民吟詠会三方支部の奉納吟詠が行われ、参加者による献花でその遺徳をしのび讃えました。

また、佐久間艇長を顕彰し後世に永く伝えていく「のこすことば文学賞」の授賞式も行われ、優秀賞に輝いた福岡県の松野保子さんらが表彰を受けました。

（受賞者とその作品は2010年3月号に掲載）

佐久間艇長の生涯

佐久間勉は、明治12年北前川の佐久間家次男として誕生。高等小学校まで往復6里の道のりを歩いて通い強健さを増していった。

家計が苦しく、旧小浜中学校時代は、教科書は買わず友人のものを書き写した。

広島県江田島海軍兵学校卒業後、第6潜水艇の艇長を命ぜられ、訓練中の事故により30歳で殉職した。

佐久間艇長の精神

遺書が物語るように危機に直面してもなお、部下の家族を思いやり、沈没原因を克明に記すなど佐久間はその職責を全うした。

父母を敬い、師の恩を忘れず、死期の間際においても、人を思いやる優しくもたくましい人柄から人としてのあり方や生き方を学び、その精神を後世に受け継いでいくことが望まれる。

施設概要

構造：木造平屋（一部2階）建
延床面積：217㎡
事業費：1億1,900万円
（うち建物5,985万円）
特徴：若狭地方特有の伝統的な「天秤梁工法」と日本の伝統工法「軸組工法」を採用。県産材スギ、松を利用した上、自然エネルギーと共生する「パッシブソーラーハウス」をコンセプトとしている。

三方中学校
エコ改修

夏涼しく 冬暖かい 校舎へ再生

改 温熱環境の改善

築後 50 年近くが経過し、老朽化が進み、耐震の面からも早急な再整備が必要とされていた三方中学校。

環境に配慮した整備を目的とした全国 20 校のモデル校に選定され、校舎改修が実現しました。

屋上や外壁の外断熱化、ペアガラス化、自然換気や日よけルーバーの設置などで「夏涼しく冬でも暖かい」校舎に生まれ変わりました。

断熱

三方中では鉄筋コンクリートの構造体の外側で断熱する『外断熱』を採用しました。これにより、夏場は日射熱の室内への侵入を防ぎ、冬場は冷気の外部からの侵入を防ぎます。

また、暖房器具からの暖気や生徒の体からの発熱による熱をコンクリートの構造体に蓄熱させることで、暖房効果を高め、体にやさしい学習環境をつくっています。

学校には開口部が数多くあるため、窓にはペアガラス（2 枚のガラスの間に空気層を挟んだもの）を用いて断熱性能を高め、開口部からの熱の出入りを抑えています。

屋上
屋上は防水の劣化改修を兼ねた置床式外断熱

外壁
外壁は既設骨組みに断熱材を吹き付け外断熱化

屋上緑化
土を詰めたチューブの上に芝生を張り、蒸発冷却効果促進

通風

渡り廊下棟と北校舎棟の階段室上部には、室内と室外の圧力差で自動的に開閉するバランス式排気窓（排気口）を設置し、教室や廊下には内倒し窓やスリット窓（給気口）を設置しています。

これにより、暖気が下から上へとのぼる性質を利用して、給気口から排気口へと校舎内に自然の風が通り抜けます（ドラフト換気）。

夏場、小さな給気口から夜間の冷気を取り込み建物を冷やすことで、朝の登校時の蒸し暑さをなくします（夜間換気＝ナイトパージ）。

※給気口は他の窓と比べて小さくすることで、風が強い日でも換気ができ、夜間開けて帰っても防犯面の心配もありません。

風の塔
ドラフト換気を促す風の塔

自然排気窓
無風でも換気可能

給気窓
積極的に夜間換気を促す

日射制御

校舎南側の窓の外側に「出」の短いポリカーボネート製の可動フィンと、「出」の長いアルミ製の庇を組み合わせた『日射遮へいルーバー』を取り付けています。

フィンのピッチ・出の長さ、庇の出の長さは、夏場に日射をさえぎり、冬場に効果的に日ざしを取り込むように調整されています。

また、フィンを可動させることで日ざし量の調整も可能です。

ルーバー、庇
冬場に効果的に光を取り入れるルーバーと夏場の日射をさえぎる庇

教室内
冬場柔らかな拡散光を教室内にとりいれる

高効率型照明
省エネを図り、温室効果ガスの排出を削減

クリーンエネルギー

冷房器具は普通教室には設置していません。

暖房器具にはバイオマスエネルギーを燃料とした『ペレットストーブ』を採用しています。間伐材や木くずなどの廃材を材料につくられた木質ペレットを燃料としているため、二酸化炭素を増やすことのない（カーボンニュートラル）暖房器具として地球温暖化防止に役立てています。

また、間伐促進につながり、山の再生や水源涵養など地域環境全体にも貢献します。

※バイオマス＝動植物から生まれた再生可能な有機性資源（生物由来資源）です。代表的なものに家畜排せつ物や生ゴミ、木くずなどがあります。

ペレットストーブ（普通教室用）
地域のバイオマスエネルギーを利用　ほんわかやわらかな自然の暖かさ

太陽光発電
発電出力約 13kw　校舎へ電気を供給

雨水利用（雨水ピットのぞき窓）
雨水を地下ピットに溜め、ろ過してトイレや中庭散水に利用

環境教育

三方中学校では、エコ改修事業をきっかけとして、平成20年度から三方五湖をはじめとした自然環境や、自分たちを取り巻く生活環境に目をむけ、環境教育の取り組みを行っています。

【取り組みの特徴】
- ○自分や人々の生活と豊かな郷土の自然や文化との関わりに気づく
- ○自分自身も環境を構成する重要な一要素であるいうことを理解する
- ○すすんでより良い環境を創造しようとする実践力を身につける

環境校外合宿
自然の循環を学ぶ－木や虫や鳥の気持ちになって自然の関わりあい、支えあいに気づく

環境校外合宿
熱のメカニズムを学ぶ－夏涼しく冬暖かい建物にするためには、どんな工夫が必要か実験

バイオマス発見体験ツアー
まき割り体験－間伐材の発生からペレット製造までの一連の過程を現場で体験

エコ改修事業の取り組み

事業がスタートした平成19年度には、環境建築に関する地域技術者の技術レベルの向上や、学校を核として地域も一緒になって環境教育を展開していくために、「エコ改修検討会」と「環境教育検討会」を設置し、検討を重ねました。

平成20年度には、「エコ改修推進委員会」、「教員ワークショップ・地域ワークショップ」での成果をもとにエコ改修設計を進め、学校・地域で環境教育の様々な取り組みを実践しました。

また、生徒会代表による「エコプロジェクトチーム」を中心に、地域への普及・波及活動も積極的に行いました。

平成21年度にはエコ改修工事を進めるとともに、さらに地域へと環境教育の輪を広げるため、地元高校生と地域住民との「中庭ウッドデッキプロジェクト」を行いました。

○エコ改修検討会（42名）
座長：福井大学建築建設工学科教授　松下聡
アドバイザー：愛知産業大学造形学部准教授　宇野勇治

○環境教育検討会（三方中学校教諭）
座長：三方中学校校長　若新一雄
アドバイザー：滋賀大学環境総合研究センター准教授　市川智史

○エコ改修推進委員会（28名（地区・PTA代表、行政関係者、学校関係者、設計者など））
座長：若新一雄（同上）
アドバイザー：松下聡（同上）、宇野勇治（同上）、市川智史（同上）

エコ改修インタビュー

1年1組
河原一喜さん
木がたくさん使ってあって森の中に居るよう。エコや自然のことを勉強したい。

1年2組
今井直人さん
普通の学校よりとても明るい感じ。エコ改修の工夫や便利なところを見つけたい。

1年3組
中上雄太郎さん
ウッドデッキやシンボルの木が気に入っている。新しい校舎をきれいに使っていきたい。

2年1組
小堀向日太さん
渡り廊下を使って教室の移動がしやすくなった。トイレがきれいで明るくなった。

2年2組
前田 蓮さん
仮教室のときはやる気がなかったけど、新しくきれいになった校舎でやる気が出た。

2年3組
中川晴菜さん
教室と廊下の仕切りが開くので教室が広く感じる。こまめに電気を消すことを心がける。

3年1組
下南桃茄さん
風の塔や中庭ウッドデッキがお気に入り。廊下との仕切りがなく隣の組と一体感がある。

3年2組
百田夕菜さん
咲楽ホールの壁が木でできていて暖かい感じ。玄関が広く明るいので使いやすい。

3年3組
宇野夏子さん
電気をつけなくても教室が明るい。教室の仕切りを全開にできて開放感がある。

咲楽（さくら）宣言

私たちの三方中学校は、万葉の昔からその清らかさが見る者の心をひきつけてきた・・・（中略）

よって、次代を担う私たちが、自然との共生の花を咲かせ、人にも自然にもやさしい取り組みをすすめ、広げることをここに宣言するとともに、この宣言が三方中学校のシンボルである大桜のごとく、地域の方々にも、そして、未来の三方中学生にも愛され、親しまれることを願い、『咲楽宣言』と名づけます。

＜感謝＞
改修していただいたことに感謝し、校舎を大切に使います。

＜活用＞
環境保全に向け様々な工夫が施された校舎を活用し、省エネルギーや省資源に努めます。

＜成長＞
人にも自然にもやさしい取り組みをすすめることで私たちも成長します。

＜未来＞
三方中学校の生徒であることに誇りを持ち、私たちの願いを発信します。

エコ改修の概要（抜粋）

総事業費　8 億 4, 549 万円（耐震改修含む）

断熱	屋根屋上	外断熱	硬質発砲ポリスチレン断熱材を設置
	壁柱型	外断熱	難燃性現場発泡ウレタンフォーム吹付け
	開口部	ペアガラス	室外側フロートガラス 3mm、空気層 6mm、室内側学校用強化ガラス 4mm
遮熱・遮へい	屋根屋上	屋上緑化	FRP 外断熱防水＋防根シートのうえ、軽量自然土壌詰めニットチューブ＋高麗芝
	壁開口部	庇、ルーバー	庇の出：壁面より 600mm 程度、ポリカーボネートフィン 8～13 枚
自然換気・通風		温度差換気	バランス式自然排気窓の設置　※ドラフト効果で無風状態でも換気促す
		夜間換気	内倒し窓、給気スリットの設置
		教室オープン化	教室と廊下間の間仕切りを木製 3 連引き戸に変更　廊下を取り込んだ授業を展開
雨水利用		散水利用	中庭植栽へ散水　ろ過・薬剤注入で雨水を優先利用
		トイレへの利用	南校舎のトイレへ利用　ろ過・薬剤注入で雨水を優先利用
機器の高効率化		冷暖房	空調機を環境配慮型に交換（職員室、校長室、保健室、個別相談室、カウンセリング室）
		照明	照明器具を環境配慮型器具に交換
		トイレ	衛生器具や水栓を節水型器具に交換

昼光利用	教室廊下	両面採光	教室と廊下間の間仕切りをガラス（木製建具）化
外部環境の改善		敷地内の緑化	既設中庭を地元の間伐材を使ったウッドデッキテラスに改修　シンボルツリー植栽
クリーンエネルギー導入	自然	太陽光発電	システム容量約 13kw　自転車小屋屋根に設置
	バイオマス	ペレットストーブ	普通教室 12 室に強制給排気型・強制対流型を設置　環境学習ギャラリーにペレットストーブを熱源とする床暖房システムを設置
グリーン購入		地域材の利用	咲楽ホール壁、環境学習ギャラリー天井、木製建具など
教育空間の充実		間取りの変更	北・南校舎各階に渡り廊下を設置し校内に回遊性を確保
		環境学習室の整備	校舎の中心位置に学校・地域の環境学習の発信基地として環境学習ギャラリーを設置
耐震改修との連動			外付け耐震フレームを日射遮へい庇として機能
エコマテリアル・エコ工法等		仕上げ	床長尺シート（再生ビニル使用品ｸﾞﾘｰﾝ購入法適合製品）、床タイルカーペット（工場内リサイクル活用商品）、木部自然塗料（植物油からできた塗料使用）
		仮設教室	仮校舎は建てず、既設体育館のピロティ部分を仮教室に改修
		工法	エリアごとに工事を行うことで既設施設を利用しながらの「居ながら改修」を実現

まちの話題

WAKASA TOWN NEWS

Let's豪（ごう）　夢大陸！

2010年オーストラリア派遣研修（3/24～31）

次代を担う中高生がオーストラリアでホームステイする海外派遣研修が行われました。

この研修は、広い視野と豊かな行動力で国際化時代に活躍できる人材育成を目指して、毎年開催されているもので今回で20回目。

町内の中学生14人、高校生2人、引率者4人が参加。一行は24日から7泊8日の日程でオーストラリアニューサウスウェールズ州を訪れました。参加者は農場体験やハイスクール体験入学、ホームステイなどを通じ、国際交流を深め、自然や文化の見聞を広めて、国際人としての一歩を踏み出していました。

▲ホストファミリーとのガーデンパーティー

高速道路　着々と

舞若道三方IC工事安全祈願（3/25）

NEXCO（ネクスコ）中日本は、舞鶴若狭自動車道三方インターチェンジ工事の安全祈願祭を行いました。

町内には上中ICと三方ICの2つのインターチェンジができることになっています。このうち三方ICを含む若狭町向笠～美浜町興道寺を結ぶ約6.8kmの区間を三方IC工事としており、総工費92億円余りと小浜IC～敦賀JC間では最大規模。

この日は工事区間内で最も長い矢筈（やはず）山トンネルの工事着手を機に安全が祈願されました。

舞若道は平成26年度に兵庫県吉川JC～敦賀JCの全線が開通することになっています。

◀来賓挨拶　森下町長

▶本線と町道高架（左）

五湖をきれいに！

三方五湖一斉清掃活動（3/28）

地域住民やボランティア、三方五湖保全対策協議会会員らが湖周辺の一斉清掃を行いました。

この活動は、若狭町や美浜町の環境保全団体や漁協、観光団体などで構成する三方五湖保全対策協議会が毎年春と秋に実施しているもの。

この日、若狭会場では縄文口マンパークに約130人が集まり、湖畔沿いを徒歩で、空き缶やペットボトル、不法投棄の古タイヤなどを拾い集めました。

また、漁協は船上から湖のゴミを集めました。参加者は、「生活ゴミが目立つ」「上流からのゴミも漂着している」「一人ひとりがマナーを守り心癒される湖を取り戻したい」と話していました。

道路や遊歩道のゴミを拾う参加者

※広報紙に「あなた」の写真が写っていましたら役場企画情報課にご連絡ください。写真をさしあげます。（TEL0770-45-9110）

暴力のない明るいまちを！

暴力団排除に関する協定（3/30）

若狭町と敦賀、小浜両警察署が「町営住宅などからの暴力団員排除に関する協定」を結びました。

この協定は町が管理する住宅で"入居申込者が暴力団員かどうかの情報提供""入居者が暴力団員とわかった場合の明け渡し支援"などについて、町と警察が緊密に連携する内容。

この協定にあわせ、町は町営住宅入居などのルールを定めた条例を改正し、「暴力団員には入居資格がない」などの規定を加えました。

町は暴力団員の排除を徹底して進め、安心して安全に暮らせるまちを目指すとし、協定を結んだ敦賀、小浜警察署長らは、「暴力団員の排除に向けて一体となって取り組みたい」と話していました。

▲協定を結ぶ（左から）小浜警察署長、森下町長、敦賀警察署長

シーズンイン！

三方五湖春まつり（4/3・4）

観光シーズンの幕開けを告げる「三方五湖春まつり」が五湖周辺で行われました。

レインボーラインの梅丈岳山頂公園では、三方五湖広域観光協議会会長（森下町長）らが恒例の「かわらけ投げ」でシーズン中の安全や観光客の増加を願いました。

このかわらけ投げは、昔、この地の平和を守っていた心やさしい天狗に酒を供えることが由来。このかわらけに願いを書いて空高く投げると願い事がかなうと伝えられています。（かわらけ＝p23 参照）

また、「観光船レイククルーズ」の船上からは湖を開く意味を込めて、水月湖に「黄金の鍵」が投げ入れられ、多くの観光客の来訪を願いました。

このあと、地元保育園児らが祈念乗船し、観光シーズンの訪れを賑やかに祝いました。

▲かわらけ投げ

MOVIE ホームページに動画

▲黄金の鍵投げ入れ

社会の危険から身をまもろう！

小学１年生に防犯ブザー贈呈（4/6）

福井県警察と FM 福井は、県内の小学１年生に、若狭町では新１年生 144 人に防犯ブザーを贈りました。

この取り組みは、社会の危険から自分の身を守ってもらおうと７年ほど前からはじめられたもの。

この日、熊川小学校では、入学式のあと担任の先生から新１年生一人ひとりに防犯ブザーが配られました。児童らはランドセルに結びつけ、いざというときいつでもブザーを鳴らせるように準備していました。

新１年生は、「知らない人についていかない」「こわい目にあいそうになったらこのブザーを鳴らす」と約束していました。

▲ブザーを見せる（左から）松見遥さん（1年）、佐藤蘭菜さん（2年）、森下恵久さん（1年）